

2026 年度 大学院生命創薬科学専攻
博士課程(後期)シラバス

明治薬科大学大学院薬学研究科

目 次

学術論文作成・発表演習	1
学術論文総説講演Ⅱ	3
生命創薬科学課題研究Ⅱ	4

明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻博士課程（後期）

2026 年度（必修科目）シラバス 1 年～3 年/通年

科目名：学術論文作成・発表演習

Training for preparation of journal article and practice for presentation

科目責任者：小林カオル

演習概要(学問分野、主たる講義項目)と目標:

第一線で活躍されている国内外の研究者の講演会に参加するとともに、卓越した関連論文を読みこなす。研究の目的、背景、実験結果と考察、研究成果のまとめ方とともに、計画通りに研究が進まない場合にどのようにして問題を解決したか、などについて修得し、優れた学術論文を作成するために必要な知識と技能を身につける。

対応するカリキュラムポリシー：CP1, CP3

演習計画:

回数*	担当者	テーマ	内 容
1～5	所属研究室の 指導教員	講演会に参加した後、講演会および関連論文の内容をレポートにまとめる。	第一線で活躍されている研究者の講演に触れ、プレゼンテーション技能を修得する。講演者の学術論文を熟読し、論文のまとめ方(研究背景、テーマ設定、論文の概要、序論、本論、実験結果と考察、結論、実験項、参照文献など)を修得する。
6、7		仮想的査読を行う。	1～5 で熟読した論文から 1 報を選び、必要な研究データや考察の適切性など、仮想的に論文審査を行うことにより客観的な評価法を学習する。
8～10		学術論文の草稿作成	自身の実験結果から新規性、独創性に富み、再現可能な研究成果を抽出し、論文草稿を作成することで優れた学術論文作成に必要な技能を養成する。

*在籍期間に 10 回

テキスト：学内外で開催される学術講演など

1. 大学院特別講義
2. 大学院若手講話会
3. 国内外で開催される学会の特別講演やシンポジウム等
4. 国内外の学術雑誌投稿規定など

準備状況(予習・復習)

予習:参加を希望する講演会の講演題目に関連する学術論文リストを作成し、研究背景と概要の把握に努める。

復習:講演内容とすでに発表された論文内容について、新規性、独創性、再現性などの点から整合性について比較検討し、学術論文をまとめるために必要な知識と技能の研鑽に努める。

参考書:

「科学者・技術者のための英語論文の書き方」 R. Lewis, N. Whitby, E. Whitby 著、東京化学同人

「一流ジャーナルから学ぶ科学英語論文の書き方」 平田 光男 著、東京化学同人

「英語で科学論文を書く人のために」 堀田 康雄、山下 三郎、大垣 雅昭 著、廣川書店

成績評価の方法：講演会に関するレポートの内容(50%)、仮想的な論文審査の妥当性(20%)、学術論文草案(30%)について総合的に判定し、評価する。

教員からメッセージ：在籍中に研究成果を学術論文として投稿し、掲載されることを目標として日ごろから努力してほしい。

明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻博士課程（後期）

2026年度（必修科目）シラバス 1年～3年/通年

科目名：学術論文総説講演Ⅱ

Lecture training including presentation and preparation of scientific review article Ⅱ

科目責任者：小林カオル

演習概要(学問分野、主たる講義項目)と目標：

国際的に優れた学術雑誌に掲載された英文学術論文を題材として、研究の目的、背景、実験の手法、考察などを正しく理解し、テーマ案を選定する。選定したテーマに関連する情報を収集し、プレゼンテーションの骨子を構築し、発表資料を作成する。学内口頭発表会を開催し、質疑応答を通じてプレゼンテーション能力を培う。

対応するカリキュラムポリシー：CP3

演習計画：

回数*	担当者	テーマ	内容
1～10	所属研究室の指導教員	創薬研究を支える専門性の高い学術に関する総説講演	専門性・話題性の高い英文学術論文を熟読後、参考文献並びに関連資料を整理して、内容をまとめ、プレゼンテーションに必要な資料の作成を行う。この間、まとめ方、発表態度、質疑応答の仕方などについて適切な指導とアドバイスをを行う。

*5回：専門学術雑誌の調査、内容把握、関連論文収集・整理

2回：テーマ選定と発表要旨作成

2回：発表資料の作成

1回：学内発表会（発表と質疑応答）

テキスト：専門性の高い優れた英文学術論文

参考書：

「科学者・技術者のための英語プレゼンテーション」 R. M. Lewis 著、東京化学同人

「学会発表の上手な準備」 森川 陽・大島 一郎・高橋 孝志 著、講談社

「学会プレゼン新技術」 高橋 良治・中嶋 秀夫・小松 一祐 著、日本医事新報社

準備学習(予習・復習)：

予習：報告されている数多くの英文学術論文の中から特に興味あるものを選出し、総説講演までにそれを選んだ理由を担当教員に説明する。

復習：担当した総説講演で指摘された箇所(発表内容、レジュメ作成、プレゼンテーション方法など)について修正・改善し、研究成果報告などに役立てる。

成績評価の方法：プレゼンテーション技能と発表資料の内容(90%)、質疑応答能力(10%)を総合的に判定し、評価する。

教員からのメッセージ

優れた研究成果を見出せたら、それを領域の専門家はもとより専門外の方々に広く説明する必要があります。そこでは、優れたプレゼンテーションにより、できる限り多くの方々に興味を引いてもらい、客観的評価を進んで受ける姿勢が大切です。その意味でこの科目はとても大切な役割を担っています。

明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス
2026年度（必修科目）12単位

科目名：生命創薬科学課題研究Ⅱ

Themed Research of Life and Pharmaceutical Sciences II

科目責任者：小林カオル

担当教員名：紀 嘉浩、齋藤 望、高取和彦、高取 薫、長浜正巳、菱沼 滋、森田雄二、
林 賢、樋口和宏、松本靖彦、横屋正志

研究概要：

研究室に所属し、指導教員による研究指導を受ける。創薬化学コースでは、様々な生命現象を科学的視点でとらえ、創薬研究展開の可能性を多面的に探求する。生命科学コースでは、分子レベルの病態機能解析などから治療薬の分子標的を探る。各研究室の研究内容は大学院要覧を参照する。

対応するカリキュラムポリシー：CP1, CP2, CP4

到達目標：

1. 専門分野における高度な知識と技能を修得している。
2. 新たな課題を設定、研究計画を立案し、課題解決する能力を修得している。
3. 国際的な視野をもち、研究成果を世界に向けて発信・説明できる能力を修得している。
4. 科学者としての高い倫理観、責任感および使命感を身につけている。

成績評価の方法：目標到達度をルーブリックに基づき総合的に評価する(100%)。

その他：生命創薬科学課題研究Ⅱの成果は、審査制英文論文の筆頭著者として、学位申請申込時に公開済みあるいは掲載が決定していること。また、生命創薬科学課題研究Ⅱの成果は、博士論文としてまとめる。3年次1月に博士論文発表会を行う。

学習成果の到達目標（入学時に提示） 生命創薬科学専攻 博士課程（後期）

区分	領域	項目	評価基準				レベル0	対応するDP
			レベル4	レベル3	レベル2	レベル1		
知識	基礎的知識・専門知識	自分の専門分野の関連する高度で最先端の研究動向に精通している	自分の専門分野に関する最先端の知識を完全に把握している	自分の専門分野に関する最先端の知識をおおむね把握している	自分の専門分野に関する最先端の知識を最低限把握している	自分の専門分野に関わる最先端の知識の把握に努めている	DP-1	
		自身の研究課題について、適切に情報収集し研究実施計画を立て、実行する能力を有する	自分の研究に関する情報を関連分野も含めて幅広く収集・整理・評価したうえで、課題解決に必要なデータや研究方法を適切に判別し、提案している。	自分の研究に直接関係する先行研究だけでなく、関連分野の研究の情報についても収集・整理・評価したうえで、適切な研究方法を提案している。	自分の研究に関係する先行研究の情報について収集・整理・し、必要十分な研究方法を提案するよう努めている。	自分の研究について収集・整理している。	DP-2	
技能	研究力・論理的思考力	他者との対話を通じて研究に関する議論を行う能力を有する	指導教員や学生とどうしだけでなく、他の教員とも積極的に議論している。	指導教員だけでなく学生どうしでも積極的に議論し、専門性の向上に大いに努めている	指導教員だけでなく学生どうしでも議論をおこなない、専門性の向上に努めている	指導教員との議論をおこなない、専門性の向上に努めている。	DP-2	
		研究成果をレジメ、論文、プレゼンテーション資料等の文書としてまとめる能力を有する	研究で得られた結果を適切に分析・考察し、学芸誌や学芸報告など学外での発表に対して可能なプロダクトを作成している。	研究で得られた結果を適切に分析・考察し、学内で十分認められる水準のプロダクトを作成している。	研究で得られた結果を分析・考察し、研究室内で理解される水準のプロダクトを作成している。	研究で得られた結果に基づいてプロダクトを作成している。	DP-2 レベル1の評価基準に到達していない	
		研究室内での発表や報告会を含め、他者に対して自分自身の研究成果を発表し、適切に討論する能力を有する	当該分野の第一線の研究者が集まる学術集会等において、適切に発表ならびに質疑応答を行うとともに、他の演者の発表について適切に質問し、十分に議論を交わすことができる。	発表の内容と意義が伝わるよう、原稿なしでわかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なうとともに、質疑応答に対して適切な応答をしている。また、他人の発表に対して的確な質問をしている。	発表の内容と意義が伝わるよう、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なうとともに、質疑応答をしている。また、他人の発表内容に合った質問をしている。	発表の内容と意義が伝わるよう、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なう工夫をしている。また、他人の発表内容に關心をもち、質問しようとする。	発表の内容と意義が伝わるよう、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なう工夫をしている。また、他人の発表内容に關心をもち、質問しようとする。	DP-2
		英語で原著論文を作成、投稿し、査読者の意見を理解し適切な対応を行う能力を有する	査読者の審査意見を理解し、その内容を反映させた修正を行うことができる。	査読者の審査意見を理解し、その内容を適切に修正し投稿できる	指導教員の意見を適切に修正し投稿できる	原著論文の初稿を書くことができる	原著論文の初稿を書くことができる	DP-3
態度	人間性・倫理観	学業研究が社会に与える影響を理解し、薬学研究者として遵守すべき倫理観を身につけている	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報をはじめとした取り扱いに配慮すべき事項を十分遵守して研究に取り組んでいる。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報をはじめとした取り扱いに配慮すべき事項について研究に取り組んでいる。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報をはじめとした取り扱いに配慮すべき事項について遵守するよう努めている。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報をはじめとした取り扱いに配慮すべき事項について関心を示している。	DP-4	

標準レベル
(卒業時に到達しておくべきレベル)

